



(上)「棚田LOVER's(ラバース)」の理事長・永菅さん(右から2人目)と、市川町寺家地区で棚田を守り続けている津田さん一家。(下)棚田LOVER'sのイベントで、地域や都市部の人を交えて一緒に手植えた稲

## 体験し、食の大切さを実感 美しい棚田を将来に残したい!

育む



日本の山間部で昔から稲作が続けられている「棚田」。後継者不足や赤字の経営などが原因となり減少し続けています。そんな棚田の保全と復興を目的に、市川町と香美町を中心に活動している「NPO法人 棚田LOVER's(ラバース)」の理事長永菅裕一さんに話を聞きました。

大学で環境人間学を学んでいくうちに農作物ができるまでの生産者の努力とありがたさに気づいた永菅さん。消費者と生産者の関係が希薄になっていく中で「興味を持ってもらうには実際に作物を栽培し、食べていただくことが一番分かりやすいのではないか」と、子どもや多くの人々に農作業を体験してもらえるイベントを開催しています。「担い手育成と消費者拡大につながるよう活動していきたい」と話す永菅さん。

11月21日(日)には収穫祭と玉ねぎを植えるイベントが開催されます。興味のある人はHPを見るか直接連絡を。☎090(2359)1831

棚田LOVER's

検索